

## 第4回 こども園部会 会議報告

日 時:令和7年9月30日(火)

午後7時～7時45分

場 所:岡谷市役所 605会議室

### ○次 第

1. こども園移行までのスケジュールについて
2. 各担当の進捗報告について
3. 幼児期の教育・保育に関する新たな指針の策定について

### ○部会で確認した内容

①こども園移行までのスケジュールについては、こども園の開園時期が「令和10年4月」に決定したことにより、以前配布をしたスケジュールから実施年度が変更になった項目などを確認。

#### ②各担当の進捗報告

##### 【整備室】

「市教育保育目標」については、本日の部会と10月の「子ども・子育て支援審議会」にて参加者から意見聴収を行う予定。

「園名」については、まず義務教育学校と認定こども園を総称する名称を検討、決定する予定。

##### 【保育園】

「園交流」については、9/30に川岸・成田の両園に分かれて実施した、かけっこ、リズム、玉入れなどの運動会ごっこの内容や園児の様子を確認。

「園校交流」については、昨年度、小学校との交流を重ねた結果、スムーズな学校生活に繋がったことから、今年度も継続的に交流会を希望している。学校の工事が始まったことにより、プレハブ校舎への引っ越し準備や今後、体育館が使用できなくなることから現時点で未実施であるので、今後どのように交流ができるか学校側と検討予定。

「地域との交流」については、10月に橋原区のお年寄りの方と成田保育園の年長児の交流会を実施予定。11月の2園交流では、川岸5地区の区長や地域の方を招いて豚汁会を計画。川岸5地区の未就園交流は来年度に向けて計画を進める。

##### 【保護者会】

「保護者交流」については、実施時期を今後、保護者の意向を確認しながら検討していくが、単独で開催するよりは、参観日の後に実施をすることができれば保護者は予め休暇を取っているの、参加しやすいと考える。保護者同士の交流を目的にするのか、保護者交流に合わせて保護者からの意見聴収も行うなど内容によって保護者の参加状況も異なると考える。オンラインを併用したり、アーカイブで残すことも必要になるかもしれないが、いずれにしても保護者の負担にならないような形で実施ができるよう検討していく。

③幼児期の教育・保育に関する新たな指針の策定については、現在の岡谷市の保育目標と新たに幼児教育・保育目標を策定するにあたり、大切にしたい視点やキーワードを確認。また園長会からの意見として、これからの幼児教育・保育に大切にしたい視点も確認。更に、義務教育学校では、令和9年4月の開校にあわせ、グランドデザインの策定が進められており、川岸学園構想は、乳幼児期から義務教育期までの異年齢の子ども達をつなぐ、新たな学び舎の創出がねらいであることから、そのグランドデザインと幼児教育・保育目標は連動していくことを確認。

## ○部会で出された主な意見等

(幼児期の教育・保育に関する新たな指針の策定について)

- ・園生活では、その子の個性を大切にすることやその子に合わせた保育の実践を心掛け、キーワードにある「生きる力の基礎」を育成することを重視している。
- ・運動会が終わり、運動会の活動を振り返る中で、例えばリレーで勝つためにどうすればいいかをチームで話し合いをすることで、キーワードの「人とかかわり」が生まれ、早く走るには早い子の動きを真似してみる行為などは、「生きる力の基礎を育成する」ことにも繋がるので、そういったキーワードは園でも大切にしている。
- ・夢中に会おうをテーマに園生活を送っている中、「自発的な活動としての遊び」を通して、子ども達の自己選択、決定を尊重している。
- ・健康な心と体の基礎を培うには、食育を欠かすことができない。食生活が多様化していく中、今後も、栄養士と保育士が連携をしながら、キーワードにある「心身ともに健やかに育成」を大切にしていきたい。
- ・こども園教育を実践するにあたり、「生きる力の基礎」の育成が大切であるとともに、子どもの努力や達成を認める自己有用感を育むことも大切である。また、子どもの自己決定を尊重することも大切であり、保育士としては決められた事だけを教えるのではなく、子ども主体の保育を進めるうえで、子どもと大人の主体性がお互いを尊重し、学びあう関係性を築く共主体も大切である。
- ・大切にしたいキーワードにある「教育(学び)」の考え方は、学校現場と園現場では少し異なる。学校現場では、基本的に時間割の中で多くの事を学んでいるが、幼児期の子ども達は、様々な遊びを通じて沢山の事を学んでいるので、現行の保育目標にある「明るく元気に遊び」の視点を大事にしながら新目標を策定してほしい。

## ○次回の部会での検討事項

- ・幼児期の教育・保育に関する新たな指針の策定について

## ○次回の日程について

- ・令和7年11月頃